

トラック輸送業界のための 環境から始めるSDGs 活動のヒントと事例



埼玉県の支援策

【埼玉県環境SDGs取組宣言企業制度】



埼玉県では、環境分野のSDGsのゴールの達成に向けた取組を宣言し、一定の要件を満たす企業等の取組を県ホームページ等で発信し、支援しています。

- ・対象
埼玉県内に本社又は支社等を有し、県内において事業活動を行う企業、法人、団体、個人事業主
- ・宣言企業のメリット
 - ✓ 県ホームページ等で環境分野のSDGsの取組がPRできます。
 - ✓ 先行事例の情報収集や企業等のネットワークづくりができます。
 - ✓ 地域での信頼獲得や新たな事業機会の創出につながります。
 - ✓ 取組のPRで企業イメージが向上し、多様な人材の確保につながります。
 - ✓ ビジネスの取引条件に対応できます。
 - ✓ 社会的な課題への対応により自社の取組が深まります。

【手続きについて】

自社の環境SDGsの取組を見つめなおしましょう

■ ステップ 1 取組宣言書の提出

はじめに、取組宣言企業となるための「宣言書」を御提出ください。

宣言後、県ホームページの一覧表に企業等の名称、取組項目等を掲載します。



■ ステップ 2 取組報告書の提出

以降、原則1年ごとに進捗状況を確認し、「取組報告書」を御提出ください。報告後、報告いただいた取組内容、成果、PRポイント等を県ホームページに掲載します。



環境SDGsの取組を更に進め、継続しましょう

お問合せ：埼玉県 環境部 環境政策課
(電話：048-830-3019 メール：a3010-11@pref.saitama.lg.jp)

CONTENTS

- 環境から始めるSDGs …………… 2
- トラック輸送業界のSDGs活動のヒント …………… 3
- 取組事例 …………… 7
 - マルタケ運輸株式会社 様
 - 有限会社カクタス 様
- 埼玉県の支援策 …………… 11
 - 埼玉県環境SDGs取組宣言企業制度



環境から始めるSDGs

トラック輸送業界は、国内貨物輸送の基幹産業として、経済活動や市民生活を維持する上で、不可欠な存在です。

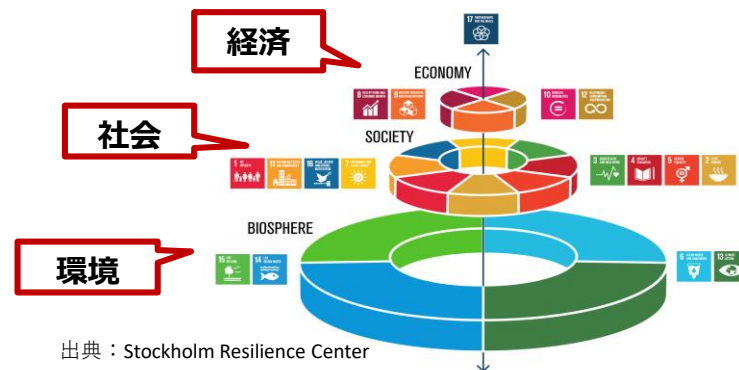
一方で、トラック走行時の排気ガスが環境に影響を与えていることから、エコドライブや燃費維持のための日常点検、低公害車の導入などに取り組んでこられました。その結果、県内の大気環境は改善し、微小粒子状物質（PM2.5）についても環境基準を達成するまでになりました。

一方、地球温暖化が進むことで、今後豪雨災害や猛暑のリスクが更に高まることが予想されています。

SDGs（Sustainable Development Goals 持続可能な開発目標）は、「誰一人取り残さない」より良い世界へ変革することを目指して、**環境、経済、社会**、3つの側面から捉えることのできる17のゴールを、自分事として、私達が事業活動や普段の生活から、少しずつ、未来の子供たちに良い社会、地球を引き継ぐことができるように活動していくものです。

下図で示されるように、SDGsは環境を基盤に持続可能な社会や経済を築くことを目指しています。

SDGsやパリ協定の採択、ESG投資の拡大で、企業等に環境配慮の取組がより一層求められています。埼玉県トラック協会様をはじめとする関係団体様や企業等様のこれまでの取組が環境分野のSDGsの取組につながっていることから、より一層取組が広げられるよう、埼玉県環境部では皆様を支援していきます。



トラック輸送業界のSDGs活動のヒント











実はすでに取り組んでいる「環境SDGs」活動

トラック輸送の主なエネルギー源は軽油などの燃料であり、燃費改善や輸配送の効率向上など消費そのものを削減する活動は全て直接的に「環境SDGs」につながります。

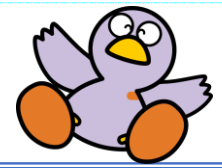
また、省燃費タイヤの利用やタイヤのリサイクル、省燃費車両への更新、アイドリングストップの励行等も、「環境SDGs」活動そのものです。

埼玉県自動車地球温暖化対策計画書「自動車地球温暖化対策実施方針」の各社の取組の記述から、各取組とSDGsのゴールとの関係を次にまとめました。これらと類似の活動をしていれば、それは「環境SDGs」の取組をしていることになります。

番号	具体的な取組内容	SDGsのゴール
1	【省エネ】【気候変動】【化学物質等】 省燃費タイヤを使用し、使用する燃料を削減している。	 
2	【省エネ】【気候変動】【化学物質等】 車両更新時には、CO2排出量の少ない〇〇を積極的に導入している。 >ハイブリッド車 >軽自動車 >電気自動車 >低燃費車	省エネ、CO2排出量削減の取組は、7「エネルギー」や13「気候変動」につながります。
3	【省エネ】【気候変動】【化学物質等】【人材育成・環境教育】 燃費維持のため適切な車両の維持管理を行っている。具体的には〇〇を行っている。 >日常点検整備マニュアルの作成、 >日常点検整備に関する教育の実施、 >日常点検の実施、 >エアークリーナー点検、 >タイヤ空気圧の定期的点検 >運転日報の作成等	  省エネ等を通じた排気ガスの削減の取組は、11「都市」、12「生産・消費」につながります。
4	【省エネ】【気候変動】【化学物質等】 省エネのため〇〇に取り組んでいる。 >アイドリングストップの励行の徹底 >キーチェーンを採用した降車時のアイドリング防止 >路上駐停車の自粛	 環境の取組に関する社員教育は、4「教育」につながります。

番号	具体的な取組内容	SDGsのゴール
5	【廃棄物】【3Rの推進】 廃棄物の削減のため使用済みタイヤをリサイクルしている。	  廃棄物の適正な処理やリサイクルは、11「都市」、12「生産・消費」につながります。
6	【3Rの推進】【天然資源の持続的利用】 省資源のため、リトレッド（再生）タイヤを使用している。	  再生タイヤの使用により天然資源の保護もされるので、12「生産・消費」、15「陸上資源」につながります。
7	【省エネ】【気候変動】【化学物質等】 輸配送の効率向上のため、〇〇などに取り組んでいる。 >物資集荷等の共同化 >配送業務の共同化 >配送集荷の工夫 >時間指定配送の低減 >受注配送時間の設定 >緊急配送の低減 >検品時間の短縮 >商品荷姿の標準化	  輸配送の効率向上等の取組により、省エネ、CO2排出量削減が進み、7「エネルギー」や13「気候変動」につながります。
8	【省エネ】【気候変動】【化学物質等】 燃費悪化防止のため道路混雑時を避け、昼間配送振替や土日の車両使用削減に取り組んでいる。	  輸配送の効率向上等の取組により燃料使用量が削減でき、11「都市」、12「生産・消費」につながります。

トラック輸送業界のSDGs活動のヒント



番号	具体的な取組内容	SDGsのゴール
9	<p>【省エネ】 【気候変動】 【化学物質等】 高効率化を目指して情報化を促進しており、〇〇に取り組んでいる。 > 配車システムの導入 > 燃費等の記録管理 > テレマティクスやカーナビゲーションシステムの活用 > ETCの導入 > ドライブレコーダーの導入</p>	  効率化等の取組により、省エネ、CO2排出量削減が進み、7「エネルギー」や13「気候変動」につながります。
10	<p>【省エネ】 【気候変動】 【化学物質等】 物流の高度化による効率化を図るために、〇〇に取り組んでいる。 > 機械化による自動化の推進 > 物流拠点の整備 > 荷捌き場等の整備</p>	  効率化等の取組により燃料使用量が削減でき、11「都市」、12「生産・消費」につながります。
11	<p>【省エネ】 【気候変動】 【化学物質等】 自動車よりもCO2排出の少ない、〇〇を活用している。 > 鉄道輸送 > 海運</p>	
12	<p>【省エネ】 【気候変動】 【化学物質等】 通勤には自動車をなるべく使用しないよう、〇〇に取り組んでいる。 > 公共交通機関の利用の推奨 > 自転車や徒歩での移動の推奨 > マイカーでの通勤を禁止 > カーシェアリングの導入</p>	
13	<p>【廃棄物】 【3Rの推進】 【省エネ】 【気候変動】 【化学物質等】 グリーン経営認証を取得している、あるいは取得活動中である。</p>	    グリーン経営認証は様々な取組を含むもので、4つのゴールにつながります。

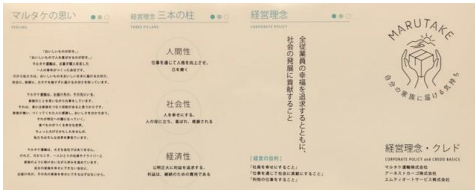
番号	具体的な取組内容	SDGsのゴール
14	<p>【環境マネジメント】 〇〇を取得している、あるいは取得活動中である。 > ISO14001 > EA21 自社独自の環境マネジメントシステムを構築した、あるいは構築中である。</p>	        環境マネジメントは様々な取組を含むので、8つのゴールにつながります。
15	<p>【環境情報開示】 環境報告書を作成し、開示している。</p>	 環境情報開示は、12「生産・消費」の中に位置付けられています。
16	<p>【社会貢献活動】 【気候変動】 【生物多様性】 植林のイベントを開催もしくはイベントに参加している。</p>	         社会貢献活動については、活動の内容により、関連するゴールが異なります。 例1) 植林イベントへの参加や彩の国みどりの基金への寄付は、15「陸上資源」や13「気候変動」 例2) 川の清掃活動は、6「水・衛生」や14「海洋資源」 例3) 地域の清掃活動は、11「都市」 例4) 地域の小中学生の体験学習や施設見学の受入れは、4「教育」



マルタケ運輸株式会社

■ SDGsに取り組むきっかけ

当社は、「全従業員の幸福を追求するとともに、社会の発展に貢献すること」という経営理念に基づいて活動しています。



この理念とクレドが書かれているカードを全従業員が四つ折りで常に携帯しているクレド：ラテン語で社是の意味。

この考え方は持続可能な開発目標(SDGs)と同じです。当社の経営目的の一つに「仕事を通じて社会に貢献すること」を掲げてますが、社員一人ひとりが事業活動に誠実に取り組み、会社が成長していくことで、SDGsの目標達成に寄与することができますと考えています。

経営目的として、「利他の仕事をする事」もあります。自社のために利益を確保するとともに、取引先や地域社会全体の利益を考慮して、事業を行うことが大切であるとよく話しています。

これらの経営理念及び経営目的とSDGsが合致していることから、SDGsに取り組んでいくことが当社にも大きなメリットをもたらすと考えたのが、SDGsの取組のきっかけです。

■ SDGs活動のはじめの一步

まず考えたことは、SDGsの目標は漠然と設定するのではなく、目に見える数値として設定すればモチベーションを醸成しやすく、達成感が味わえるのではないかと、いうことでした。



武田功
代表取締役社長

具体的には、燃費数値目標があります。燃費は今までも毎月車両ごとに算出していましたが、大きな意味も考えず単なる数字として出していただけでした。しかし社内燃費目標を設定し、配送員ごとに毎月の実際の燃費と突き合わせてみると生きた数値となり、あとどれくらい努力すれば自分の目標を達成することができるのか、という向上心につながりました。これで社内全体の燃費意識が高まりました。2020年のトラック1台当たりの燃費は5.14km/ℓでしたが、SDGs取組開始3年後の2023年には、6.00km/ℓ以上に向上させ、2030年には、8.00km/ℓ以上にしていこうという、高い数値目標を設定しています。

社内の燃費目標設定によって、配送員一人ひとりの燃料使用量の削減活動がどれだけSDGsの目標達成に貢献しているのかが分かるようになりました。

例に挙げた燃費向上を始めとして、社員一人ひとりが、SDGsの目標達成に向けて自分に何ができるのか考えるようになりました。毎日取り組んでいるという自覚を持って、毎月達成感を得ることが新たなモチベーションを生んでいます。自ら考え行動できるように環境を整え、SDGs推進マイルド向上につなげていくことが、はじめの一步に非常に大事と考えています。

■ SDGs活動の内容

現在は下記を行っています。

- 1)【3Rの推進】
 - ・PC、スマホ配付による、ペーパーレス化推進。
 - ・洗剤・紙類等の詰替可能製品の選択購入。
- 2)【省エネ】
 - ・事務所、倉庫等の照明のLED化。
 - ・不要照明及び空調のoff徹底。
 - ・ドライブレコーダー及びデジタルタコグラフを活用したエコ速度遵守の管理・指導徹底。
 - ・営業車のハイブリッド化(15台中9台)、コンビニ配送車のEV導入。
- 3)【気候変動】
 - ・拠点間会議のweb化による移動の省エネ。
 - ・「エコドライブ研修」による燃費改善指導。
 - ・敷地内の緑化推進。
 - ・クールビズ及びウォームビズの導入。
- 4)【人材育成・環境学習】
 - ・採用教育、幹部定期的面談などの機会を通しての「地球に優しい」「環境を破壊しない」活動の重要性の周知徹底。
- 5)【社会貢献活動】
 - ・営業所周辺の清掃活動を通しての地域環境の改善、ひいては会社理念の「社会の発展に貢献すること」の実践。

今後の環境項目として下記を検討しています。

- ・紙の代替としてのストーンペーパーの導入。
- ・窓ガラスの断熱・遮熱対策。
- ・ハイブリッド車、EV車の稼働率向上。
- ・自転車通勤者への「エコサイクル」手当の支給。等々

■ SDGsを取り入れたメリット

SDGsに企業として取り組むことで、事業活動に公共性が認められていることを、社内だけではなく、取引先に対しても訴求することができます。

社員においても、食品流通のプロとしての自覚を持ち、「食の安心安全」を最優先に行動し、ライフラインを維持して提供しているという強い自負心となっています。

社員一人ひとりが地域社会の発展に貢献しているという「仕事に対する誇り」にもつながっています。

会社概要 マルタケ運輸株式会社(創立 1972年)

社長	: 武田功	資本金	: 3,000万円
本社所在地	: 〒340-0001 埼玉県草加市柿木町1079-1	事業所数	: 14カ所
		社員数	: 393名
		車両数	: 213台
URL	: https://marutake-transport.co.jp/		

更に、社外の取引先等に対して、地域社会に必要とされる会社として認識され、当社の事業への信頼が高まっていることも大きなメリットとなっています。なお、交通エコロジモビリティ財団の審査により「グリーン経営認証」に登録されています。



■ SDGsを定着させるための施策

中心となってSDGsを推進するチームを結成しました。このチームが当社のSDGs活動を纏めています。



チームの方々
左から
八木橋氏
中川氏
上田氏

埼玉県環境SDGs取組宣言企業取組報告書のコピーを各営業所・部門に配付し、周知徹底するとともに、それぞれの部署で具体的に何をするのかの報告を求めています。令和3年10月に各部門から活動報告がされる予定です。トップダウンでSDGsへの取組方針・方向性は決めましたが、具体的な活動はボトムアップで進めています。

■ 他社へのアドバイス

地域のため、社会のためと大きく構えても、やはり自社の事業活動を一丁目一番地としなければ、その取組は長続きしません。

会社とSDGsとは何かがどこかで必ず結びついていきます。目標の設定をなるべく具体的な数値として社員に分かりやすい形で示せば、浸透度も高くなります。世の中への貢献や、2030年までの10年という長いスパンを気にかける必要はないと思います。自社の業務のなかで、短い期間でもよいから目に見えて具体的に測れるような取組目標を、いかに定めることができるかが重要だと思います。

有限会社カクタス



全車搭載のデジタルタコグラフ

車両貼付のエコドライブ宣言ステッカー



有限会社カクタス

ゆっくり発進・ゆっくり停止の徹底したエコドライブが燃費低減・CO2削減につながる

■ SDGsに取り組みきっかけ

2014年から2015年にかけて、埼玉県トラック協会の中にあつたシンクタンク委員会と呼ばれる特別委員会で、東京都トラック協会で行っているグリーンエコプロジェクトと呼ばれる活動の紹介がありました。グリーンエコプロジェクトは名古屋にある株式会社アスアというところが運営しており、その会社からも内容のプレゼンテーションを受けました。

埼玉県トラック協会でもトライアルを行うことになり当社も取り組むこととなりました。

埼玉県としてはトライアルは2年で終了しましたが、当社として個別に取組を続けていて現在に至っています。

グリーンエコプロジェクトはいわゆるエコドライブ活動で、安全運転を徹底することで交通事故防止と燃費改善を図るものです。トライアル開始時にはSDGsという言葉はなかったですが、令和2年度に埼玉県環境SDGs取組宣言企業制度が始まりその内容を埼玉県環境部から説明を受けたところ、現在も続いている活動内容はSDGsであるということが分かりました。

いわば日常の活動で知らず知らずのうちに環境SDGsに取り組んでいたと言えます。

■ SDGs活動の内容

活動は大きく次の内容となっています。

- ・エコドライブ走行管理
- ・速度超過管理
- ・エコドライブ講習

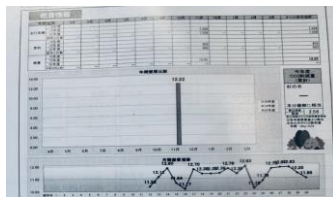
(1) エコドライブ走行管理

全てのドライバーは車両毎の走行管理表に運行日毎に、走行距離、給油量、燃費等を「手書き」で記載します。

有限会社カクタス本社営業所		20X X年MM月	
車種	走行管理表	走行距離	燃費
トヨタ	3/10	3125.6	32.5
トヨタ	3/11	3202.9	32.1
トヨタ	3/12	3462.0	27.1
トヨタ	3/13	3620.3	26.3
トヨタ	3/14	3178.7	32.4
トヨタ	3/15	3477.2	32.3
トヨタ	3/16	3533.5	28.7
トヨタ	3/17	3233.4	28.1

走行管理表のイメージ
記録データはドライバー自身の手書き。

全ての走行管理表は毎月纏めて委託先の運営会社に送られ、データ化・集計がされ、報告書として返送されてきます。



報告書 (1) 車両毎の燃費の推移等が計算され毎月報告されます。

報告書 (2) 全車両の過去3年間の燃費が集計整理され毎月報告されます。

エコドライブの効果を上げるにはドライバーの意識が極めて重要であり、手書きの記録は一見古くさいように思えますが、自らの手を動かすことがドライバーのエコに対する意識付けの鍵となっています。

(2) エコ設定速度超過管理

デジタルタコグラフ (デジタコ) を全車両に搭載しています。デジタコには道路種別毎の速度設定機能があり、設定値を超える速度での運転回数を計測しています。(法定速度以下のエコドライブとしての目標速度。あくまで法定速度は遵守) このデータをドライバー毎に集計し一覧表を作成しています。

ドライバー	超過回数	超過率
100	97	94
62	62	100
64	64	100
61	61	100
70	67	95
64	64	100
62	62	100
64	71	64
合計	9,321	2,842

毎月ドライバーごとの超過回数が集計されます。黄はXX回以上、赤はその倍の回数以上を示します。

エコ設定速度超過管理はコンテストではありませんがドライバー毎に数字で如実に出てくるので、ドライバーの反省を促しエコ速度の遵守につながり、ひいては燃費の改善につながっています。

(3) エコドライブ講習

毎月1回、全社員を対象としたエコドライブの講習会を開催しています。ドライバーの休憩室壁面には、活動理念、活動推進体制、点検整備基準、アイドリングストップの励行、環境に影響のある現象、管理部門における環境保全の推進、環境に影響のある現象が発生した場合 (の対処)、廃棄物の発生抑制について、

■ 会社概要 有限会社カクタス (創立: 1997年)

本社所在地 : 〒336-0963 埼玉県さいたま市緑区大門1595
代表取締役 : 小宮泰二
車両数 : 38台
URL : <http://www.t-cactus.com/>

エコドライブ10のすすめ、タイヤ空気圧チェック、エンジンオイルのチェック、黒煙チェック、エアフィルターのチェック、エアコンのチェックを表題としたポスターを掲げ、講習会において常にこれらのことの励行を徹底しています。



■ SDGsを取り入れたメリット

第一に燃料費の抑制につながっています。また社会的な認知も得ています。グリーン経営認証を取得し、また東京都貨物輸送評価制度の★★の評価を得ています (埼玉の会社であるが車両は都内も走行しているため評価対象)。



グリーン経営認証登録証 東京都貨物輸送評価制度評価証明書

■ SDGsを定着させるための施策

2014年以来継続している活動であり、すでに定着しています。取り立てて施策はありませんが、活動成果が交通事故防止と燃費の低減につながっており、これ自体が定着の大きなモチベーションです。

■ 他社へのアドバイス

安全運転とエコドライブが密接につながっていることはトラック運送業者は皆知っていることですが、交通事故防止と燃費の低減という実利がついてくるので、取り組むことをお勧めします。